

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



成功の反対は . . .

昨日の学年通信「バツは挑戦者の勲章です」を発行してから、早速またお便りをいただきました。紹介します。

娘はまさに“失敗したくない、間違えたくない、だからやらない”タイプです！

そのかわり、得意なことや知ってることでの分野での取組みやチャレンジ、さらには周りの子へのおせっかい等のエネルギーは感心するほどです。

そうなるまでの娘への声かけや関わりはそう簡単な道のりではなく、ついついブチギレて諦めてしまうことも多々あり…

渡辺先生はじめ 1 年団の先生方が日々このような心持ちで関わって頂けていることに感謝です(TT)

失敗や間違いをしたとしても、たくましく挑戦し続けられる学級の雰囲気作り！素敵です♡

娘の現状だけでなく、人生においてとても大切だと感じますので私自身 (& 職場の環境)にも取り入れて人生を豊かなものにしていきたいです^^

PN「SMM」さんより

SMMさん、素敵なお便りをありがとうございます。

娘さんへの声掛けがどれほど難しいか、私も一人の父親として日々感じているところですので、大変共感いたしました。

これまで、2000人以上の子どもたちに学校で「教える」ということをしてきましたが、最も難しいのはたった一人の我が子に教えることです。

それほどに、子育てという営みは難しいものだと思っています。

今度機会があれば詳しくお話したいと思いますが、学校で「教師」として教えるのと、家で「親」として教えるのには、決定的な違いがあります。

その一つが、「距離感」です。

この距離感の違いこそが、教えることの難しさを生んでいます。

しかしながら、先の通信にもあった「失敗の価値」など、人生を進んでいく上でどうしても伝えたいことがいくつもありますよね。

その伝え方や、語りの内容を精選して磨き上げてきたものを、今年の春に出版しました。

手前味噌で誠に恐縮ですが、『心を育てる語り』という本です。

先日、保護者の方々と学校外でお会いした時に、この本を買ってくださったという方々からの感想を聞かせてもらう機会があり、大変ありがたく思いました。

ほんの少し語りの方向を変えたり、意外性のある素材を通して伝えたり、子どもたちが受け取りやすいように語りを工夫することで、大切なことが格段に伝わりやすくなります。

せっかくなので、本には載せていない「失敗の価値」を伝える方法について一つ紹介したいと思います。

昨年度、公立小学校で勤めていた時に書いた通信から抜粋します。

=====抜粋ココから=====

今朝、校長先生から「たくさん失敗しよう」とのお話がありました。

始業式でのお話でした。

「たくさん失敗する」とは、「たくさん行動する」ということです。

行動無き所に、失敗は生まれません。

そして同時に、行動無き所に成長も生まれません。

「地球は行動の星である」とも言われます。

行動をすればするほど成功する、という意味のお話です。

行動をした瞬間、成長が生まれます。

以前も伝えた通り、何かの行動を起こした段階で、過去の自分からは一歩二歩と着実に前進を遂げているからです。

動くことで新たな経験や学びを得て、知識が増したり、技能が磨かれたりしていくからです。

成長を続けていくと、いつしか成功につながります。

この仕組みが分かっている人は、行動することを惜しみません。

行動する→成長する→行動する→成長する→行動する→成功する…。

このサイクルから、いつしか「大成功」が生まれます。

ではなぜ、こうしたシンプルな仕組みがありながらも、人は行動をためらうのでしょうか。

その原因の一つは「成功」の反対を「失敗」と勘違いしているからです。仮に成功がカッコ良いことなら、反対の失敗はカッコ悪いことになります。

成功がすき好まれるものなら、失敗は忌み嫌われるものになります。

成功が誇らしいことなら、反対の失敗は恥ずかしいことになります。

でも、こことはちょっと立ち止まって考える必要があります。

失敗とは、本当にカッコ悪くて忌み嫌われる恥ずかしいものなのでしょうか。

その偏ったイメージによって、我々は何か大きな損をしていないでしょうか。

人類のあらゆる文明は、数えきれないほどの失敗の上に生まれました。

世の第一線を走る方々は、皆口を揃えて「失敗の価値」を語ります。

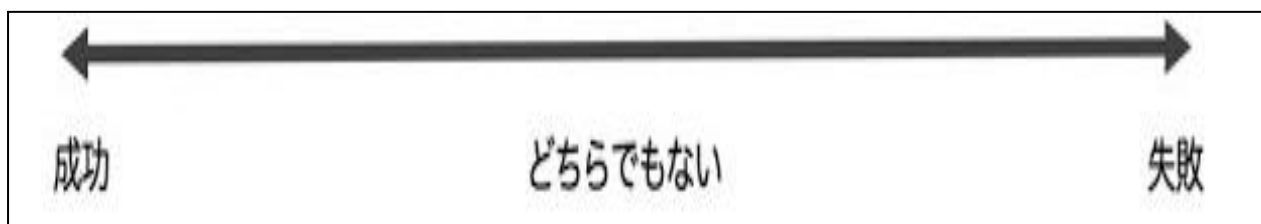
もう一度考えてみましょう。

失敗とは本当にカッコ悪くて忌み嫌われる恥ずかしいものなのでしょうか。

「折り曲げの法則」というものがあります。

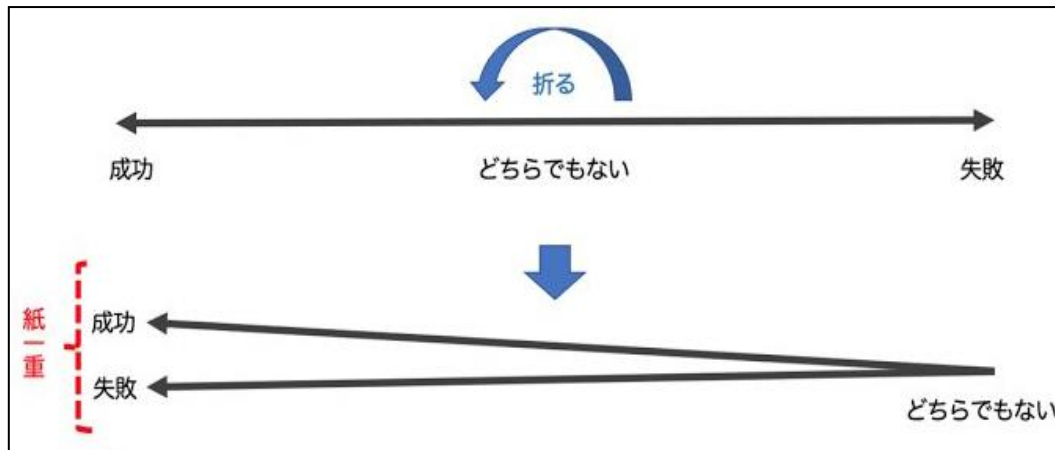
一般的に「反対」と思われているものが、実はほとんど紙一重でありたくさんの共通性を持っているというものです。

例えば、成功と失敗のイメージを一般的な図で表すとこうなります。



それを、パタンと真ん中から折り曲げてみましょう。

すると、成功と失敗の間に面白い共通点が見えてきます。



成功と失敗には、「変化を起こす」という共通点があります。
 この変化こそが、先から繰り返し書いている「成長」です。
 対して、どちらでもない、つまり「何もしない」は無変化です。
 そこには、成長も成功も生まれません。
 成功の反対は、失敗ではないのです。
 失敗の反対も、成功ではないのです。
 両者は紙一重、いわば双子の兄弟のような間柄です。
 変化や成長を自分にもたらず、希望の言葉です。
 そして、対極にある反対の言葉がこれです。

「何もしない」

成功の反対は、何もしない。

それはそうです。行動しなければ成功しないのですから。

失敗の反対は、何もしない。

それはそうです。行動しなければ失敗しないのですから。

行動しない→成長しない→行動しない→成功しない…

このサイクルに陥ってしまうと、一切の成長が生まれなくなります。

本当に恐れる必要があるのは、このループに陥ることだといえます。

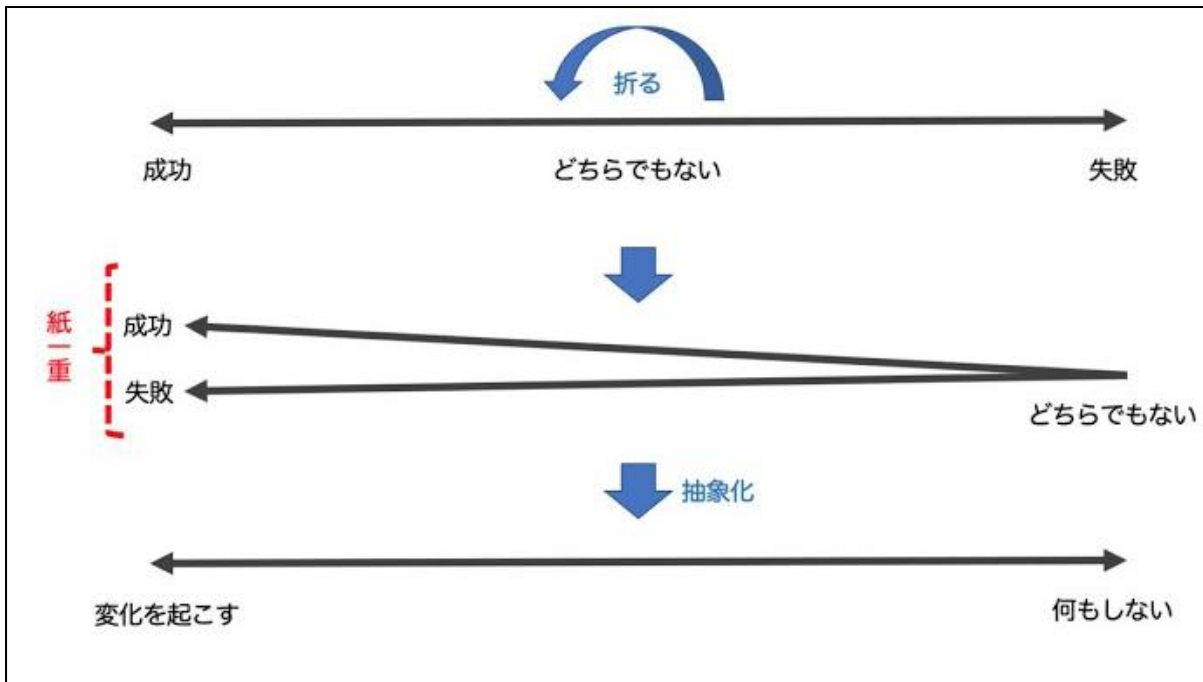
これまでの授業中にも、子どもたちに幾度となく伝え続けてきました。

「失敗は宝。」

「バツは挑戦者の勲章だよ。」

「間違いの山を作りなさい。人はそうやって成長していくからです。」

それは、言い過ぎでもうわべの言葉でもなく、本当に私が腹の底から実感している感覚でもあります。



改めてですが、子どもたちが成長していく上での最重要キーワードが「行動」です。

行動したところには、必ず成長が生まれます。

成長はいつしか目に見える形となって現れ、成功を手繰り寄せます。

その仕組みを体感した人には、大成功への道が開かれているといえるでしょう。

だからこそ、子どもたちには成功だけを追い求める誤ったパターンではなく、行動を追い求める価値を伝える必要があるのだと思っています。

そのためには、先のいそろくチェックの通り、「やってみせ」「言って聞かせて」「させてみて」「褒めてあげる」ことが大切なのでしょう。

行動の価値を、失敗の価値を、これからも伝え続けていくと共に、良い模範ややり方を示し、明確に褒められるように心がけていきます。

===== 抜粋コマデ =====

この文章は、『抽象⇄具体トレーニング』という本を参考に書きました。（非常におすすめの一冊なので、もしよければ読んでみて下さい。）

他にも、失敗の価値や行動の価値を伝える語りの素材としては、「エジソン」「1 マイル走」「サーカスの象」「大山のぶ代さん」「五嶋節さん」など、様々あります。

シンプルに「失敗は宝だ」と伝え続けることと合わせ、



心に響く語りを伝え聞かせてあげることで、その効果は増幅され何倍にも高まっています。

また、紙面を通じてそうした語りも紹介していければと思います。

SMM さんのお便りにもあったように、私もまた行動することの大切さを生き方で体現できるように努めていきたいと思います。（渡辺道治）

（ご意見ご感想などいつでも気軽にお寄せください。）

↓↓↓

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)